

2018年度 第2四半期(上半期)報告 説明資料

2018年11月22日
明治安田生命保険相互会社

I. 2018年度第2四半期（上半期）報告のポイント	P 2
II. 明治安田生命グループの業績	
1. グループ保険料	P 3
2. グループ基礎利益	P 4
3. 連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）	P 5
III. 明治安田生命単体の業績	
1. 保険料等収入	P 6
2. 年換算保険料（個人保険・個人年金保険）	P 7
3. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）	P 8
4. 基礎利益	P 9
5. 資産運用収支	P 10
6. 健全性指標・企業価値（EEV）	P 11
7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準	P 12
8. 契約クオリティ（解約・失効・減額率、総合継続率）	P 13
9. 損益計算書・貸借対照表	P 14
IV. スタンコープ社の業績【参考】	
1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益	P 15
2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）	P 16
V. 業績見通し	P 17
VI. トピックス	P 18～P 22
1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして	
2. 「お客さまとの絆」	
3. 「地域社会との絆」「働く仲間との絆」	
4. 「みんなの健活プロジェクト」	

I. 2018年度第2四半期（上半期）報告のポイント

1 明治安田生命グループ・単体ともに「増収増益」、基礎利益は2年連続「過去最高益」を更新

- ・明治安田生命3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」では、引き続き国内で成長が見込まれる「第三分野」「高齢者・退職者」「女性」「投資型商品」の4つを重点マーケットと位置づけ、今上半期においては、第三分野における新商品の発売や、外貨建て保険の販売強化に取り組み。また、海外ではグローバルな成長機会を取り込みつつ、既存投資先とのシナジー創出や収益力強化に取り組み。加えて、資産運用においては、超低金利環境や市場動向に対応した効果的な投融資を実施
- ・2018年度上半期の保険料等収入は、外貨建て保険の業績貢献に加え、2016年3月に子会社化したスタンコープ社の業績貢献等によりグループ・単体ともに増収
- ・基礎利益は、外国公社債の積み増し等による利息及び配当金等収入の増加が利差益拡大に貢献したほか、スタンコープ社の利益貢献等により、グループ・単体ともに2年連続「過去最高益」を更新

2 財務基盤の強化等を通じて、高い健全性を維持

- ・2018年9月には基金を増額するなど、長い歴史のなかで着実に積み上げてきた財務基盤により、連結ソルベンシー・マージン比率は1,025.0%、オンバランス自己資本は2兆8,504億円と、引き続き高い健全性を維持

3 2018年度通期では、明治安田生命グループ・単体ともに2年連続の「増収増益」、基礎利益は2年連続「過去最高益」を更新する見通し

- ・保険料等収入は、外貨建て保険に加え、第三分野商品の拡販等により、グループ・単体ともに、2年連続「増収」の見通し
- ・基礎利益は、前回見通し（2017年度決算報告時）の「横ばい」から「増加」に上方修正し、グループ・単体ともに2年連続「過去最高益」を更新する見通し

Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

1. グループ保険料

■ グループ保険料

(単位：億円)

	2018年度 上半期			2017年度 上半期
		前年同期比	占率	
グループ保険料 ^(注1)	15,601	+5.2%	100.0%	14,828
明治安田生命単体	14,057	+5.5%	90.1%	13,326
海外保険事業等 ^(注2)	1,543	+2.8%	9.9%	1,501
うちスタンコープ社	1,418	+2.9%	9.1%	1,377

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

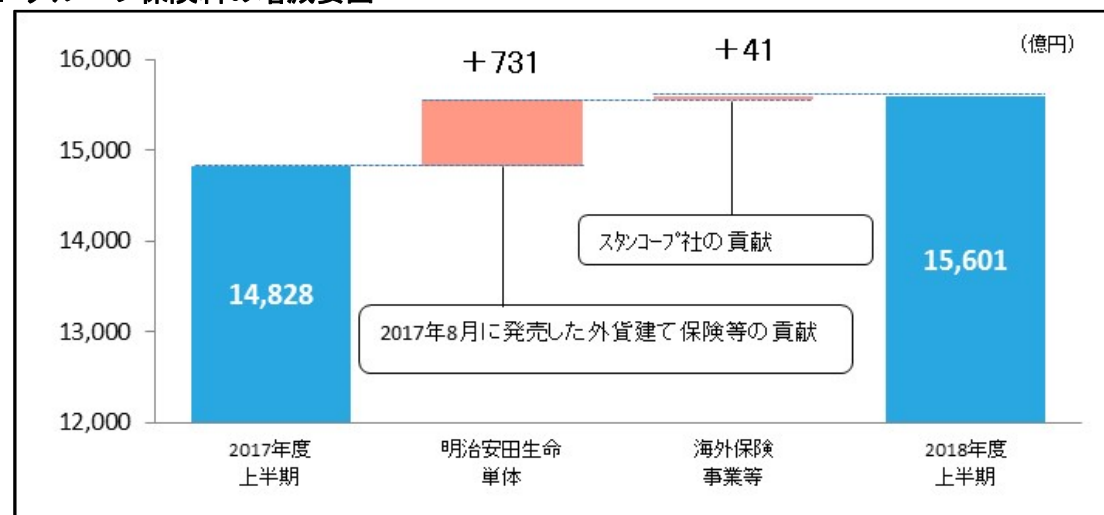
○グループ保険料は、1兆5,601億円と前年同期比5.2%の増加

・明治安田生命単体で2017年8月に発売した外貨建て保険が貢献

○グループ保険料のうち、海外保険事業等は、1,543億円と前年同期比2.8%増加

・グループ保険料に占める海外保険事業等の割合は、9.9%

■ グループ保険料の増減要因



II. 明治安田生命グループの業績

2. グループ基礎利益

■ グループ基礎利益

(単位：億円)

	2018年度			2017年度 上半期
	上半期	前年同期比	占率	
グループ基礎利益 ^(注1)	3,169	+16.0%	100.0%	2,732
うち明治安田生命単体	2,969	+15.5%	93.7%	2,571
うち海外保険事業等 ^(注2)	255	+20.1%	8.1%	213
うちスタンコープ社	181	+31.2%	5.7%	138

(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買取会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

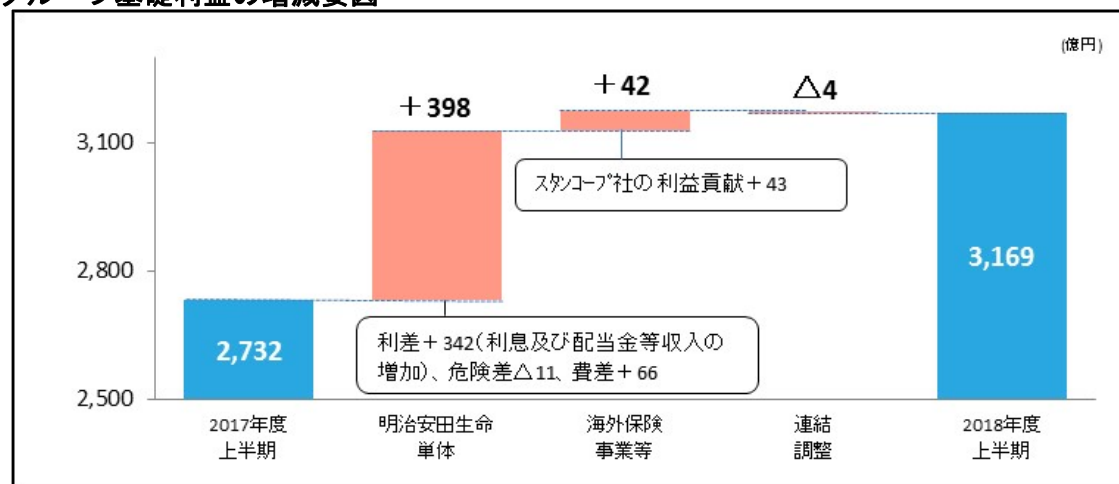
○グループ基礎利益は、3,169億円と前年同期比で16.0%増加し、上半期ベースで、2年連続過去最高益を更新

・明治安田生命単体の増益およびスタンコープ社の利益貢献が寄与

○グループ基礎利益のうち、海外保険事業等は255億円と前年同期比20.1%増加

・グループ基礎利益に占める海外保険事業等の割合は8.1%

■ グループ基礎利益の増減要因



II. 明治安田生命グループの業績

3. 連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)

■ 連結損益計算書 (要約)

(単位：億円)

	2018年度 上半期		前年同期比	2017年度 上半期
経常収益 (A)	21,453	+5.8%		20,281
うち保険料等収入	15,601	+5.2%		14,828
うち資産運用収益	5,256	+10.2%		4,771
経常費用 (B)	19,367	+5.1%		18,433
うち保険金等支払金	12,014	△1.0%		12,133
うち責任準備金等繰入額	2,916	+36.9%		2,130
うち資産運用費用	1,243	+33.6%		930
うち事業費	2,331	△0.8%		2,349
経常利益 (A-B)	2,086	+12.9%		1,847
特別損益	△826	-		△701
法人税等合計	135	+6.9%		126
非支配株主に帰属する中間純剰余	13	+528.3%		2
親会社に帰属する中間純剰余	1,110	+9.2%		1,017

■ 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV) (単位：%、億円)

	2018年度 上半期末		前年度末差	2017年度末
連結ソルベンシー・マージン比率 ^(注1)	1,025.0%	+34.8ポイント		990.2%
EEV ^(注2)	51,993	+5,521		46,471
終局金利を用いて算出したEEV ^(注3)	約54,500	約+5,500		約49,000

(注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

(注2) 「ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)」とは、生命保険会社の企業価値を表す指標の一つであり、保有契約から見込まれる将来利益の現在の価値や、保有資産の含み損益等で構成

(注3) 超長期部分の金利に、IAIS (保険監督者国際機構) が検討を進めるICS (国際資本基準) をふまえたもの (終局金利) を用いて算出した値

■ 連結貸借対照表 (要約)

(単位：億円)

	2018年度 上半期末		前年度末差	2017年度末
資産の部合計	426,691	+11,256		415,434
うち現預金・コールローン	11,281	+3,921		7,360
うち有価証券	339,476	+8,190		331,285
うち貸付金	51,720	△1,044		52,764
うち有形固定資産	9,098	△59		9,158
うち無形固定資産	4,667	△183		4,850
負債の部合計	385,918	+11,721		374,196
うち保険契約準備金	352,523	+3,813		348,710
うち責任準備金	342,135	+3,122		339,012
うち社債	5,890	+1,067		4,823
うちその他負債	14,877	+5,963		8,914
うち価格変動準備金	7,662	+808		6,854
うち繰延税金負債	3,843	+66		3,777
純資産の部合計	40,772	△465		41,237
うち基金・基金償却積立金	9,300	+500		8,800
うち連結剰余金	3,802	△1,246		5,049
うちその他有価証券評価差額金	26,433	+594		25,839

※資産の部合計は、42兆6,691億円 (前年度末比2.7%増) となりました。主な資産構成は、有価証券33兆9,476億円 (同2.5%増)、貸付金が5兆1,720億円 (同2.0%減) です。

負債の部合計は、38兆5,918億円 (同3.1%増) となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は35兆2,523億円 (同1.1%増) となりました。

純資産の部合計は、4兆772億円 (同1.1%減) となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,300億円 (同5.7%増)、その他有価証券評価差額金は2兆6,433億円 (同2.3%増) となりました。

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

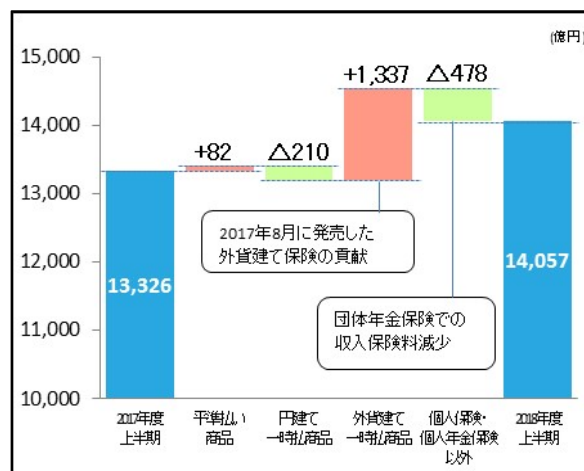
(単位：億円)

	2018年度 上半期		前年同期比	2017年度 上半期
保険料等収入	14,057	+5.5%		13,326
うち個人保険・個人年金保険	9,324	+14.9%		8,114
うち営業職員チャンネル	7,011	+8.1%		6,484
うち平準払商品	6,093	+1.8%		5,984
うち一時払商品	918	+83.7%		499
うち銀行窓販チャンネル	2,122	+47.2%		1,442
うち団体保険	1,538	△0.8%		1,550
うち団体年金保険	3,018	△13.4%		3,483

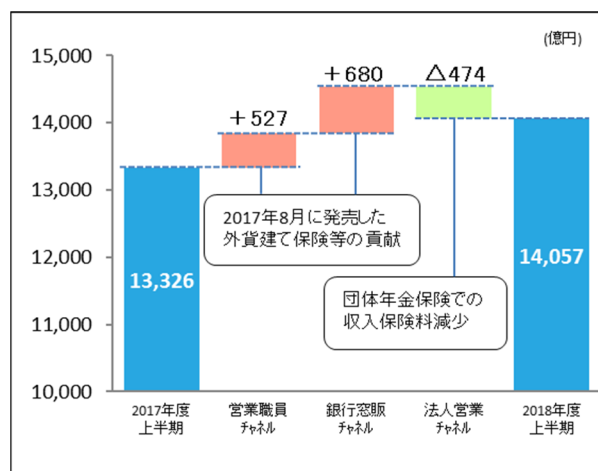
○保険料等収入は、1兆4,057億円と前年同期比5.5%増加

- ・2017年8月に発売した外貨建て保険等の貢献により、営業職員チャンネル、銀行窓販チャンネルともに前年同期比で増加

■ 保険料等収入の増減要因



■ 販売チャンネル別の主な増減要因



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

2. 年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

(単位：億円)

	2018年度 上半期		前年同期比	2017年度 上半期	
新契約年換算保険料	717	+19.1%		602	
うち営業職員チャネル	600	+16.9%		513	
うち銀行窓販チャネル	105	+38.5%		76	
うち第三分野 ^(注)	284	+53.1%		186	

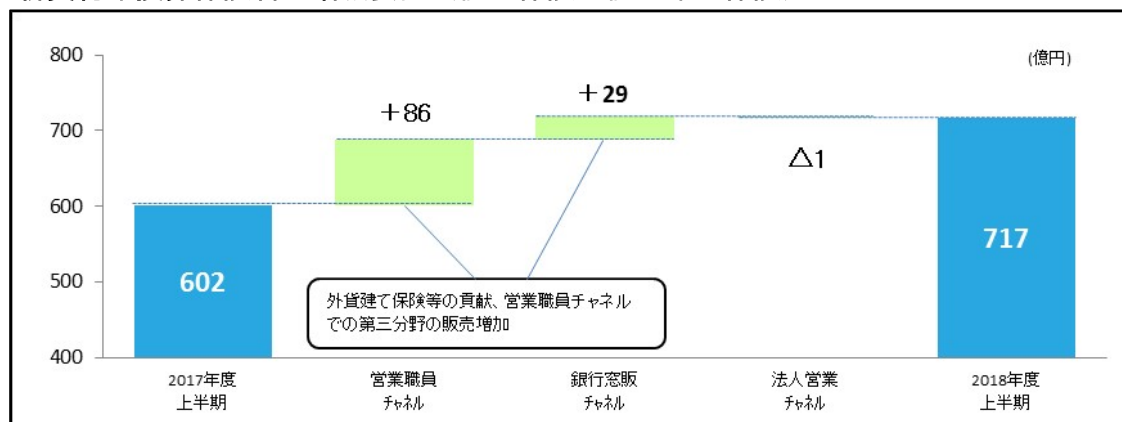
(注) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

(単位：億円)

	2018年度 上半期末		前年度末比	2017年度末	
保有契約年換算保険料	22,633	+0.5%		22,511	
うち営業職員チャネル	16,348	+0.9%		16,202	
うち銀行窓販チャネル	5,829	△0.4%		5,853	

■ 新契約年換算保険料の増減要因（個人保険・個人年金保険）



○新契約年換算保険料は、717億円と前年同期比19.1%増加

- ・営業職員チャネル、銀行窓販チャネルともに、外貨建て保険等の貢献により、前年同期比で増加

○うち第三分野においては、284億円と前年同期比53.1%増加

- ・2018年6月にベストスタイルの新特約を発売したことに加え、終身医療保険等の第三分野商品が堅調に推移

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

3. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

（単位：億円）

	2018年度 上半期末		前年度末比	2017年度末	
団体保険	1,146,164		+0.6%	1,139,442	
団体年金保険	76,628		+0.7%	76,072	
（国内グループ） ^{（注）}	88,953		+0.9%	88,117	

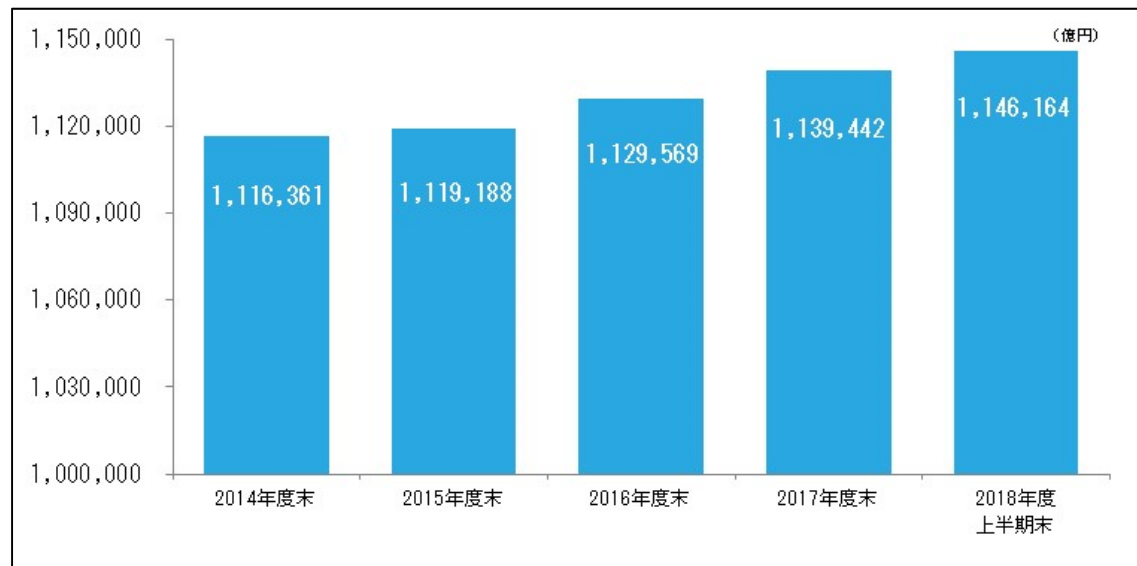
（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

○団体保険は、114兆6,164億円と前年度末比0.6%増加

・引き続き業界トップシェアを堅持

○団体年金保険は、7兆6,628億円と前年度末比0.7%増加

■ 団体保険の保有契約高の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

4. 基礎利益

■ 基礎利益等の状況

(単位：億円)

	2018年度 上半期		前年同期差	2017年度 上半期
基礎利益 (A)	2,969	+398		2,571
利差	1,317	+342		974
危険差	1,469	△11		1,481
費差	182	+66		115
キャピタル損益 (B)	△689	△151		△538
臨時損益 (C) (注)	△257	△44		△212
経常利益 (A+B+C)	2,022	+202		1,820

(注) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

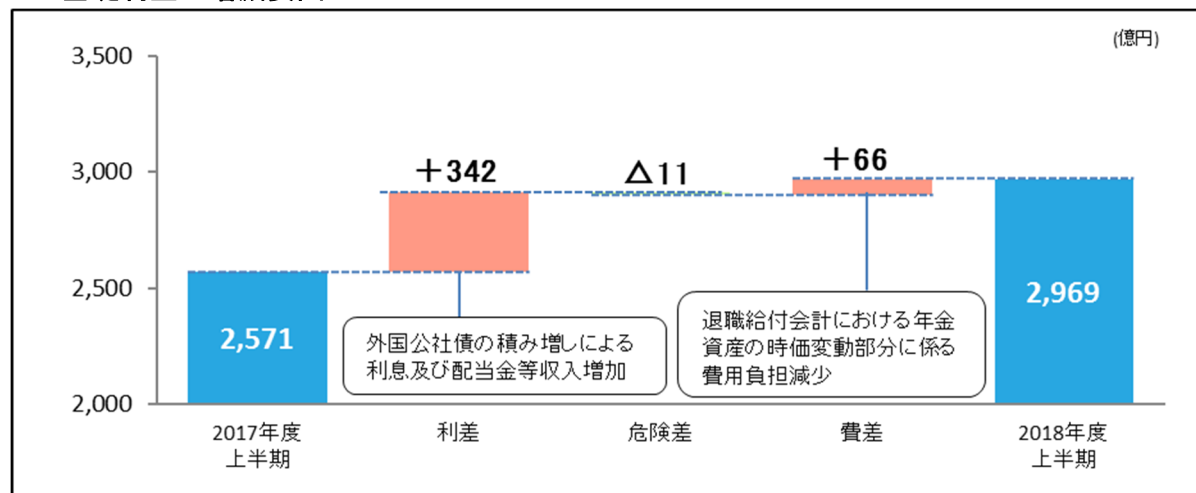
○基礎利益は、2,969億円と前年同期から398億円増加し、上半期ベースで、2年連続過去最高益を更新

- ・外国公社債の残高積み増しによる利息及び配当金等収入の増加が、利差益拡大に貢献

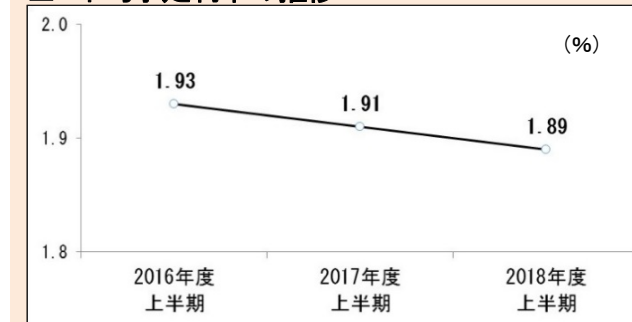
■ 基礎利益の推移



■ 基礎利益の増減要因



■ 平均予定利率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

5. 資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

	2018年度		前年同期差	2017年度	
	上半期			上半期	
資産運用収支（全社）	3,824		+181	3,643	
資産運用収支（一般勘定）	3,622		+334	3,287	
資産運用収益	4,708		+640	4,068	
利息及び配当金等収入	4,062		+303	3,758	
有価証券売却益	122		+91	30	
有価証券償還益	330		+69	261	
資産運用費用	1,086		+305	781	
有価証券売却損	183		+80	103	
有価証券評価損	15		+9	5	
金融派生商品費用	651		+194	456	

○資産運用収支（一般勘定）は、3,622億円と前年同期差334億円増加

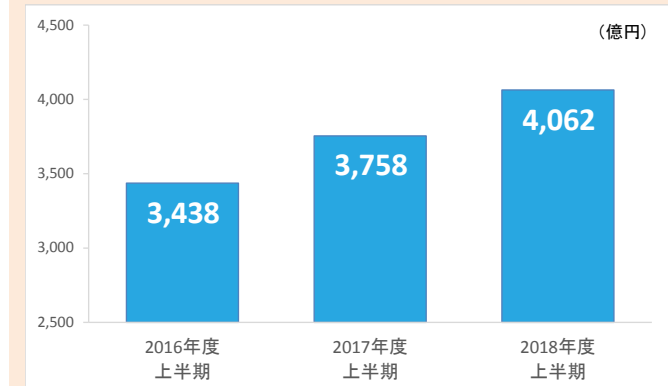
○利息及び配当金等収入は、4,062億円と前年同期差303億円増加

- ・市場環境をふまえた効果的な資産配分により外国公社債の利息収入が増加したほか、企業業績が堅調に推移するなか、株式配当が増加したことがプラスに寄与

■ 利息及び配当金等収入の推移

【参考】2018年度上半期報告の運用環境

	2018年度		前年同期末差	2017年度	
	上半期末			上半期末	2017年度末
TOPIX	1,817.25		+142.50	1,674.75	1,716.30
日経平均株価（円）	24,120.04		+3,763.76	20,356.28	21,454.30
10年国債利回り（%）	0.125		+0.065	0.060	0.045
米国10年国債利回り（%）	3.061		+0.728	2.334	2.739
円相場（円/\$）	113.57		+0.84	112.73	106.24
円相場（円/€）	132.14		△0.71	132.85	130.52



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

6. 健全性指標・企業価値（EEV）

■ ソルベンシー・マージン比率

（単位：％）

	2018年度上半期末	前年度末差	2017年度末
ソルベンシー・マージン比率	967.8	+29.9 ポイント	937.9

■ 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）^{（注1）}

（単位：％）

	2018年度上半期末	前年度末差	2017年度末
ESR	147	+18 ポイント	129
【参考値】 ^{（注2）}	190	+25 ポイント	165

（注1）当社のリスク量全体（信頼水準99.5%）に対して十分な自己資本が確保できているかを示す経済価値ベースの指標（当社の内部モデルに基づく数値）

（注2）IAIS（保険監督者国際機構）が検討を進めるICS（国際資本基準）をふまえたモデル【終局金利、運用期待収益率（0.15%）上乘せ、税効果等を反映】で算出した値。現在検討が進められているICSの動向等をふまえた計測モデルの高度化を今後も検討

■ オンバランス自己資本

（単位：億円）

	2018年度上半期末	前年度末差	2017年度末
オンバランス自己資本 ^{（注3）}	28,504	+1,992	26,511

（注3）資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保と外部調達資本の合計額

■ 実質純資産額

（単位：億円、％）

	2018年度上半期末	前年度末差	2017年度末
実質純資産額	97,279	△995	98,275
一般勘定資産に対する比率	25.0	△1.1 ポイント	26.1

■ 企業価値（EEV）

（単位：億円）

	2018年度上半期末	前年度末差	2017年度末
企業価値（EEV） ^{（注4）}	51,247	+1,842	49,405

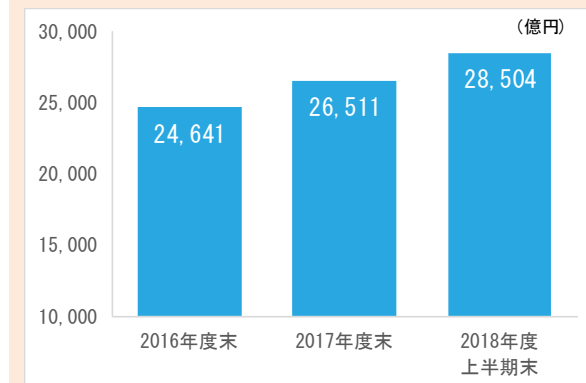
（注4）企業価値（EEV）＝保有契約価値＋修正純資産＝生命保険会社の成長性・収益性・健全性を総合的に示す指標。経済環境の前提、および貯蓄性商品の解約率などコントロールすることが困難な前提を2016年度末で固定していることから、II.3に記載のヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）とは数値が相違

○ソルベンシー・マージン比率は、海外劣後債の発行や負債性準備金の積立等により、967.8％と前年度末から29.9ポイント増加

○経済価値ベースのソルベンシー比率であるESRは中期経営計画目標値（150～160％以上）に向け順調に進捗

○オンバランス自己資本は、海外劣後債の発行や負債性準備金の積立等により、2兆8,504億円と前年度末から1,992億円増加

■ オンバランス自己資本の推移



○実質純資産額は、9兆7,279億円と引き続き高い財務健全性を維持

○企業価値（EEV）は、5兆1,247億円と前年度末差1,842億円増加

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2018 年度 上半期末		前年度末差	2017 年度末	
一般勘定資産全体の含み損益	60,568		△1,258	61,826	
うち時価のある有価証券 (注)	56,149		△1,737	57,886	
うち公社債	23,084		△3,337	26,421	
うち株式	26,918		+240	26,678	
うち外国証券	5,378		+1,271	4,106	
うち不動産	4,260		+156	4,103	

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

○一般勘定資産全体の含み損益は6兆568億円と前年度末差1,258億円減少
・国内金利の上昇により、公社債の含み益が減少

○株式の含み損益は、月中平均価格ベースで2兆6,918億円 (前年度末差+240億円)

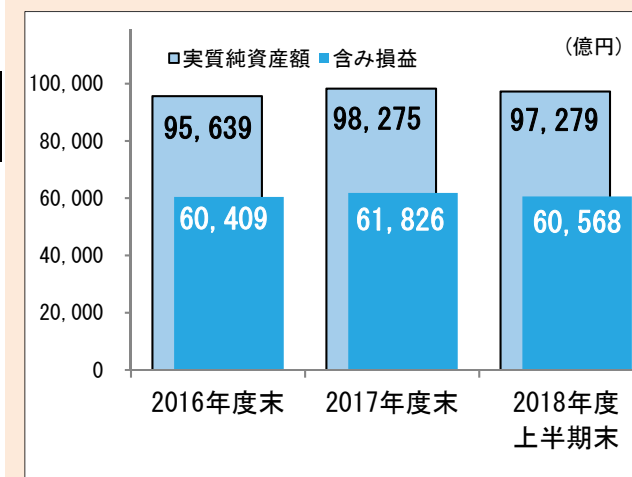
■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがTOPIXにフル連動とした場合

	2018 年度上半期末 (注)	2017 年度末
TOPIXベース	670 ポイント程度	660 ポイント程度

(注) 日経平均株価ベースでは8,900円程度

■ 含み損益の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

8. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2018年度 上半期	
		前年同期差
解約・失効・減額率	1.87	+0.09 ポイント

2017年度 上半期
1.78

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

■ 総合継続率^(注2)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2018年度 上半期	
		前年同期差
13月目総合継続率	94.9	△0.6 ポイント
25月目総合継続率	89.6	△0.2 ポイント

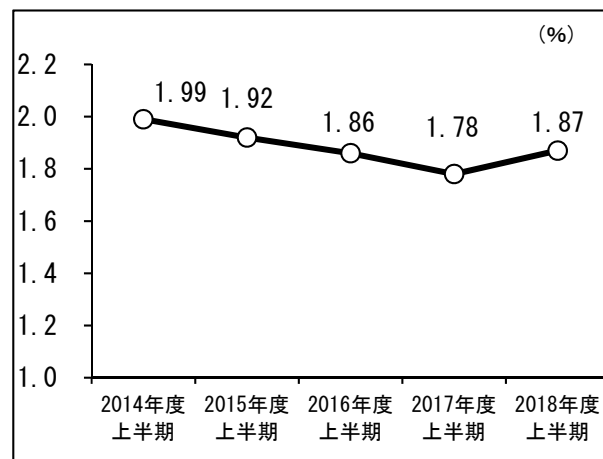
2017年度 上半期
95.5
89.8

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

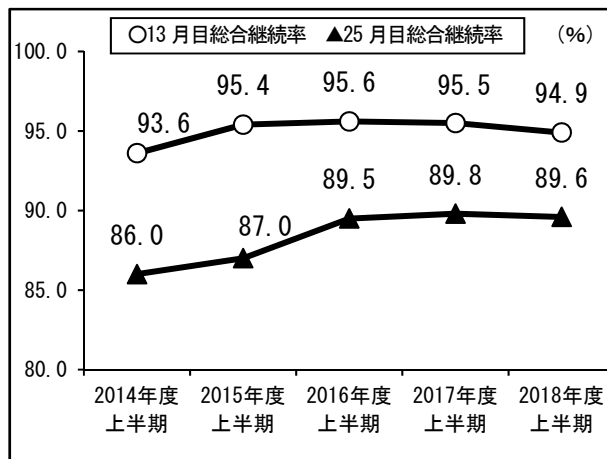
○契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移

- ・解約・失効・減額率は、1.87%
(前年同期差+0.09ポイント)
- ・総合継続率は、13月目・25月目
ともに高水準を維持

■ 解約・失効・減額率の推移



■ 総合継続率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

9. 損益計算書・貸借対照表

■ 損益計算書（要約）

	2018年度	
	上半期	前年同期比
経常収益 (A)	19,403	+6.1%
うち保険料等収入	14,057	+5.5%
うち資産運用収益	4,911	+11.0%
経常費用 (B)	17,381	+5.5%
うち保険金等支払金※	10,907	△1.3%
うち責任準備金等繰入額	2,905	+37.2%
うち資産運用費用	1,086	+39.2%
うち事業費	1,783	△1.6%
経常利益 (A-B)	2,022	+11.1%
特別損益	△826	—
法人税等合計	99	+7.9%
中間純剰余	1,096	+6.7%

(単位：億円)

2017年度
上半期
18,295
13,326
4,424
16,475
11,047
2,117
781
1,812
1,820
△700
92
1,027

■ 貸借対照表（要約）

	2018年度		2017年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	397,925	+12,281	385,643
うち現預金・コールローン	10,213	+4,238	5,974
うち有価証券	326,758	+8,938	317,819
うち貸付金	44,108	△965	45,073
うち有形固定資産	8,682	△48	8,730
うち無形固定資産	796	△11	807
負債の部合計	356,866	+12,266	344,599
うち保険契約準備金	325,191	+3,717	321,474
うち責任準備金	320,890	+2,904	317,985
うち社債	5,607	+1,074	4,533
うちその他負債	14,065	+6,516	7,549
うち価格変動準備金	7,654	+808	6,845
うち繰延税金負債	3,321	+147	3,173
純資産の部合計	41,058	+14	41,043
うち基金・基金償却積立金	9,300	+500	8,800
うち剰余金	3,784	△1,273	5,057
うちその他有価証券評価差額金	26,472	+832	25,640

(単位：億円)

※保険金等支払金の内訳

	2018年度	
	上半期	前年同期比
保険金等支払金	10,907	△1.3%
うち保険金・給付金	5,232	△3.8%
うち年金	2,965	△6.7%
うち解約返戻金・その他返戻金	2,686	+11.9%

(単位：億円)

2017年度
上半期
11,047
5,442
3,177
2,400

※資産の部合計は、39兆7,925億円（前年度末比3.2%増）となりました。主な資産構成は、有価証券32兆6,758億円（同2.8%増）、貸付金が4兆4,108億円（同2.1%減）です。負債の部合計は、35兆6,866億円（同3.6%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は32兆5,191億円（同1.2%増）となりました。純資産の部合計は、4兆1,058億円（同0.0%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,300億円（同5.7%増）、その他有価証券評価差額金は2兆6,472億円（同3.2%増）となりました。

IV. スタンコープ社の業績【参考】

1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位：億円)

	2018年度 上半期		前年同期比	2017年度 上半期	
保険料等収入	1,418	+2.9%		1,377	
基礎利益相当額 (注2)	181	+31.2%		138	
当期純利益 (注3)	100	+80.2%		55	

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月分

(注2) 基礎利益相当額は、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前の税引前利益からキャピタル損益等の一時費用を控除したもの

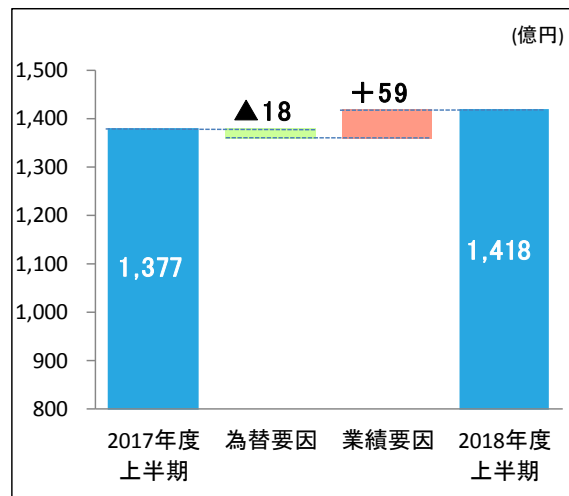
(注3) 買収会計適用後

※2017年度上半期は2017年6月末の為替レート(1米ドル=112.00円)、2018年度上半期は2018年6月末の為替レート(1米ドル=110.54円)で円換算

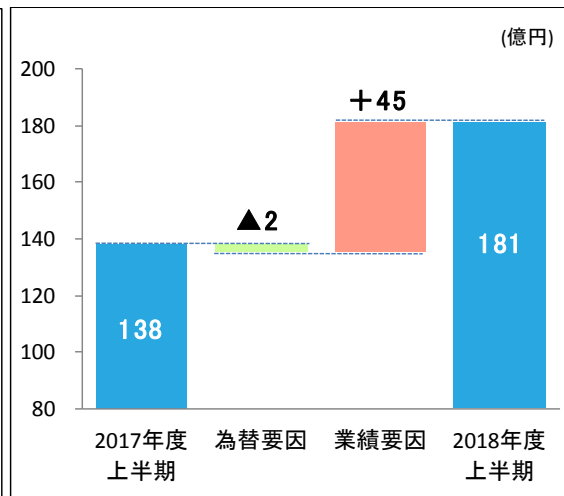
○ 保険料等収入は、主力の団体保険事業が順調に推移し、1,418億円と前年同期比2.9%の増収

○ 基礎利益相当額は、団体保険事業の給付率低下による収益改善を主因に、181億円と前年同期比31.2%の増益

■ 保険料等収入の増減要因



■ 基礎利益相当額の増減要因



IV. スタンコープ社の業績【参考】

2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）

■ 損益計算書（要約）^(注1)

	2018年度	
	上半期 <small>(注2)</small>	前年同期比
経常収益 (A)	1,873	+2.8%
うち保険料等収入	1,418	+2.9%
うち資産運用収益	374	+0.6%
経常費用 (B)	1,750	+0.3%
うち保険金等支払金	1,052	+2.4%
うち責任準備金等繰入額	8	△60.9%
うち資産運用費用	144	+1.2%
うち事業費	444	+1.7%
経常利益 (A-B)	122	+58.3%
特別損益	0	—
法人税等合計	22	—
中間純利益	100	+80.2%

(単位：億円)

2017年度 上半期 <small>(注3)</small>
1,822
1,377
371
1,744
1,027
21
142
437
77
△0
21
55

■ 貸借対照表（要約）^(注1)

	2018年度		2017年度末 <small>(注4)</small>
	上半期末 <small>(注2)</small>	前年度末差	
資産の部合計	33,650	△443	34,094
うち現預金・コールローン	488	+54	434
うち有価証券	18,873	△568	19,442
うち貸付金	7,356	△83	7,439
うち有形固定資産	294	△7	302
うち無形固定資産	4,047	△136	4,184
負債の部合計	27,862	△133	27,995
うち保険契約準備金	26,631	+90	26,540
うち責任準備金	20,605	+211	20,394
うち社債	283	△7	290
うちその他負債	481	△137	618
うち繰延税金負債	387	△80	467
純資産の部合計	5,788	△310	6,098
うち資本剰余金	5,471	△121	5,593
うち利益剰余金	410	+23	387
うちその他有価証券評価差額金	△83	△212	128

(単位：億円)

(注1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え。なお、スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、損益計算書は1月から6月の実績

(注2) 2018年6月末の為替レート(1米ドル=110.54円)で円換算

(注3) 2017年6月末の為替レート(1米ドル=112.00円)で円換算

(注4) 2017年12月末の為替レート(1米ドル=113.00円)で円換算

V. 業績見通し

2018年度業績見通し

■ グループ保険料の見通し

	2018年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2017年度 実績
		前年度比		
グループ保険料 (注1) (注3)	32,000億円程度	増加	修正なし	30,243億円
うち明治安田生命単体	29,000億円程度	増加	修正なし	27,194億円
うちスタンコープ社	2,800億円程度	横ばい	修正なし	2,811億円

■ グループ基礎利益の見通し

	2018年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2017年度 実績
		前年度比		
グループ基礎利益 (注2) (注3)	6,100億円程度	増加	+250億円	5,851億円
うち明治安田生命単体	5,700億円程度	増加	+250億円	5,467億円
うちスタンコープ社	350億円程度	横ばい	修正なし	359億円

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル110円

■ 企業価値（EEV）の見通し

	2018年度末	2017年度末
企業価値（EEV）	年平均6%程度増加	49,405億円

○グループ・単体ともに2年連続の「増収増益」となる見通し

○基礎利益は、2年連続で「過去最高益」を更新する見通し

○保険料等収入は、外貨建て保険に加え、第三分野商品の拡販等により、グループ・単体ともに、前年度から「増加」の見通し

○基礎利益は、明治安田生命単体の利息及び配当金等収入が前回見通し時の想定を上回って推移していること等から、グループ・単体ともに250億円上方修正

○企業価値（EEV）は、6%程度増加の見通し

VI. トピックス

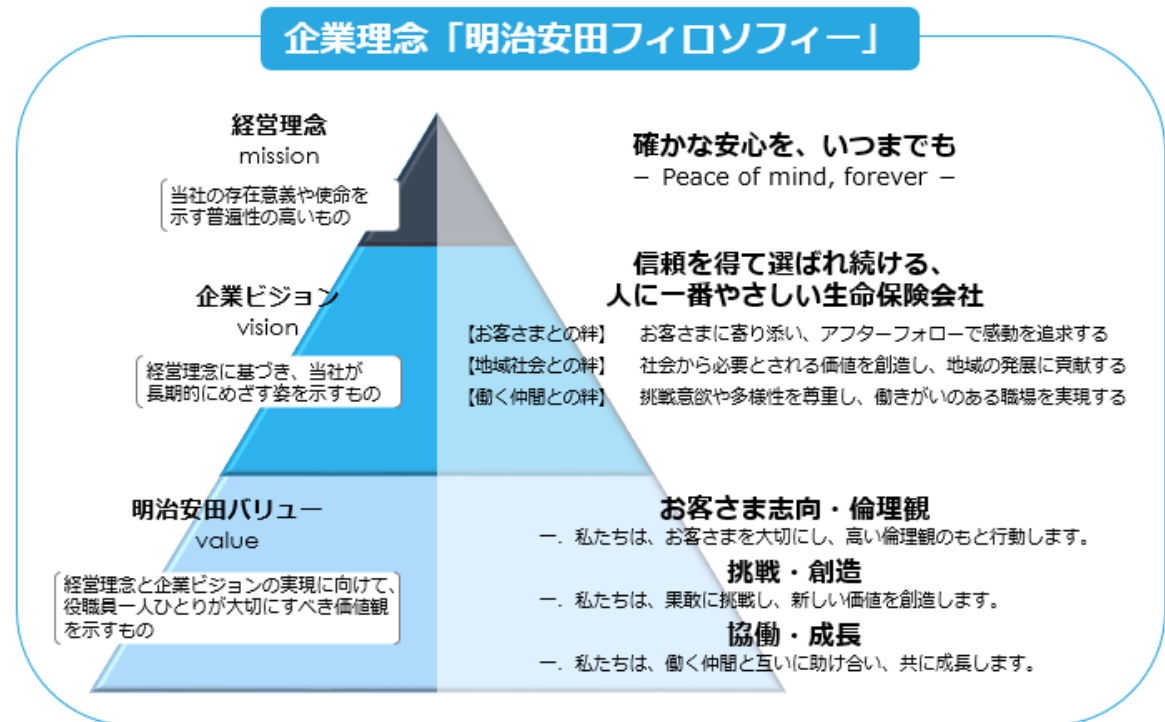
1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして

◆ 新企業理念の制定

- ・ 2017年4月に、新たな企業理念「明治安田フィロソフィー」を制定しました
- ・ お客さまに「確かな安心を、いつまでも」お届けすること。この使命のもと、「お客さまとの絆」・「地域社会との絆」・「働く仲間との絆」の3つの「絆」を大切に、当社は「人に一番やさしい生命保険会社」をめざした取組みを行なっています

◆ 「明治安田フィロソフィー」について

- ・ 企業理念「明治安田フィロソフィー」は、「経営理念」、「企業ビジョン」、「明治安田バリュー」の3層で構成
- ・ 当社の存在意義や使命を示す「経営理念」は、「確かな安心を、いつまでも」
- ・ 当社が長期的にめざす姿を示す「企業ビジョン」は、
**「信頼を得て選ばれ続ける、
 人に一番やさしい生命保険会社」**



VI. トピックス

2. 「お客さまとの絆」

◆MY安心ファミリー登録制度（2014年10月～）

- ・ 高齢のご契約者への連絡や大規模災害時におけるご契約者への連絡を確実にするための取組み
- ・ あらかじめご契約者以外の連絡先（第二連絡先）をご登録いただくことで、ご契約者との連絡が困難な場合等に、第二連絡先を通じてご契約者の最新の連絡先をご確認させていただく制度
- ・ 2018年9月末時点の登録状況は、65歳以上のご契約者さまの約77.9%（約111万人）

◆MY長寿ご契約点検制度（2015年4月～）

- ・ 超高齢社会における保険金・給付金のお支払いを確実にするための取組み
- ・ 長寿のお祝い等の節目（77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）等）に当社からはがきや電話を差しあげ、保険金等のご請求やご連絡先・受取人の変更の有無を確認。90歳以上の方には訪問による確認も実施

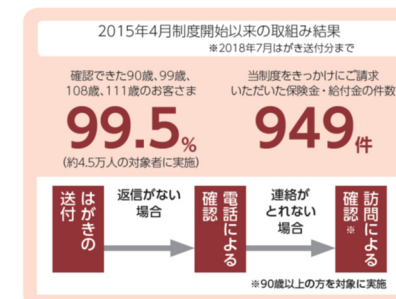
◆「MYアシスト+（プラス）」制度（2018年4月～）

- ・ 自力でのお手続きが難しいお客さまのお手続きをサポートする取組み
- ・ 視力・聴力の低下、長期療養や後遺症などにより、書類記入や署名が困難といった「自力でのお手続きが難しいお客さま」をサポートする当社独自の制度
- ・ ご自宅等での当社職員による代筆手続き等に加え、「アシスト・カード」を申込みいただき、アシストが必要な情報（状態）をご登録いただくことで、専用組織「アシスト・デスク」が、お客さまの状況に応じたきめ細やかなサポートを実施

◆最新・最適な保障のご案内

- ・ ご契約内容やご請求有無の確認を行なう毎年の定期点検活動を通じて、ご加入の保険が、ご自身の「今」に最新・最適な保障となっているかを、「ベストスタイル コンセプトパンフレット」等を用いて、一緒にご確認いただけるようご案内を実施

下記ケース等で連絡がとれない場合



【ベストスタイル コンセプトパンフレット】

VI. トピックス

3. 「地域社会との絆」「働く仲間との絆」①

◆「明治安田生命Jリーグ」

- ・「明治安田生命Jリーグ」の応援を通じて、地域に貢献するための活動を展開
- ・Jリーグの「地域に根差したスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに賛同し、2015年1月にタイトルパートナー契約を締結
- ・加えて、全国の支社等において「明治安田生命Jリーグ」に所属する全54クラブ等（※）と個別にスポンサー契約を締結
- ・2017シーズンは、当社従業員・家族と地域のお客さまあわせて約27万人、2018シーズンは10月末時点で約27万人がスタジアムに足を運びJクラブ等を応援

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ

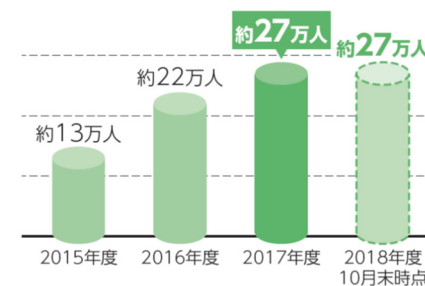
◆全国各地で小学生を対象としたサッカー教室など、各種イベントを開催

- ・地元のJクラブ等のみなさまの全面協力を得て、2018シーズンは、小学生を対象としたサッカー教室を9月末までに全国で69回開催し、約6,500人のお子さまや保護者の方々が参加
- ・あわせて、地元Jクラブやパートナー企業等のご協力のもと、Jリーグ選手OBの講演会等のイベントも開催

◆「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を自主的に結成

- ・当社女性従業員が中心となり、女性ならではの視点でJリーグを盛り上げようと、全国各組織（本社組織、94支社・マーケット開発部、19法人部）で「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を自主的に結成
- ・試合観戦だけではなく、サッカーへの興味・関心を高め応援の輪を広げていくために、さまざまな活動に取組み、女性ならではの視点でJリーグを応援

■スタジアム観戦者の推移*



*当社従業員、家族、お客さまの合計



【小学生向けサッカー教室の様子（長崎支社）】



【「明治安田Jリーグ女子倶楽部」の活動の様子】

VI. トピックス

3. 「地域社会との絆」「働く仲間との絆」②

◆ スポーツを通じた地域社会への貢献

- ・ 「明治安田生命Jリーグ」をはじめ、プロゴルファーの勝みなみ選手との所属契約等、スポーツを通じた地域社会の活性化や健康増進の支援に関する取組みを実施
- ・ 2015年7月より「次世代トップアスリート応援プロジェクト」を創設し、世界を舞台に活躍することが期待される若手スポーツアスリート（2018年8月現在10名）を支援

◆ 地方公共団体等との連携協定

- ・ 地域が抱える課題解決に向け、当社ネットワークや社会貢献活動等を通じて培ったノウハウ等を活用し、地方公共団体や金融機関等と緊密な相互連携と協働による活動を推進（2018年11月現在、25地方公共団体と4行の地方銀行と連携協定を締結）

◆ あしながチャリティー&ウォーク

- ・ あしなが育英会の協力のもと当社従業員がウォーキングおよびチャリティー募金を通じ、親をなくした子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を実施
- ・ 2017年度は全国73カ所で総勢約4万1千人の従業員・家族等が募金活動やウォーキングに参加。2018年度（9月～1月）は全国75箇所で開催予定



【プロゴルファーの勝みなみ選手および当社支援の若手アスリート】



【あしながチャリティー&ウォークの様子（鳥取）】

VI. トピックス

4. 「みんなの健活プロジェクト」

- ・ 「お客さま（個人、企業・団体）」 「地域社会」 「働く仲間（当社従業員）」 を対象に、ご加入者に限らず、幅広いお客さまの「健康に向けた前向きな活動」を支援
- ・ 取組みの柱として、「“日常的な運動（予防）”の支援」と「“定期的なけんしん（健診・検診）”の促進」を掲げ、①健康を「知る」、②健康を「つくる」、③健康を「続ける」の3つのステップに応じたメニューを継続的に提供
- ・ 2019年4月の本格展開に向けて、一部のメニューを先行展開（先行展開のメニューは以下のとおり）

◆ セルフ健康チェック for みんなの健活

- ・ けんしん（健診・検診）を促進するため、ケアプロ株式会社と提携し、支社等を簡易な血液検査等を行なう場所（機会）として提供するとともに、医療機関等での受診勧奨を実施
- ・ 2019年1月以降、一部地域で先行展開し4月から全国で年間約200回開催予定

◆ 明治安田生命Jリーグウォーキング・明治安田生命フットサルフェスタ

- ・ 地域のみなさまが地元のJクラブ選手等と楽しみながら一緒に歩くことで、健康づくりを応援するウォーキングプロジェクトを展開。10月に浦和レッズ、11月にガンバ大阪と協働したイベントを開催、今後も各地域で順次実施を予定
- ・ Jリーグパートナー企業と協働し、社会人の方を対象としたフットサル大会を実施。2018年度は全国57箇所での予選大会、10箇所での地区大会を経て、11月に全国決勝大会を開催し、約5,800の方が参加

■「みんなの健活プロジェクト」の全体像



【明治安田生命Jリーグウォーキング in SAITAMAの様子】